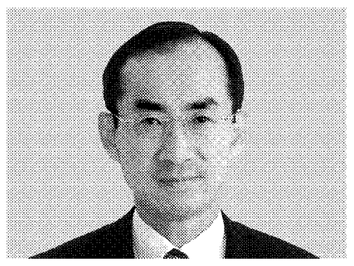
―橘　三朗―

企業の志魂（こころ）

2011年 江と戦国群雄列伝

歴史に人あり　人に志あり　企業に魂あり

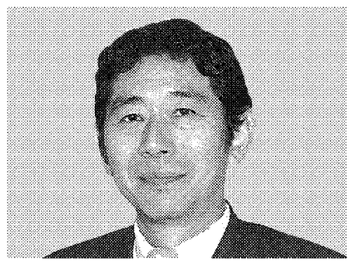


インフォメーション・システム・サービス㈱

代表取締役社長　**中川　透**氏
東京都北区赤羽2・51・3

伊達政宗は信長・秀吉・家康と並ぶ戦国の巨人。武勇、学問、政治力、先見性、どれを取っても三者と肩を並べるほどの大器量を有していた。「孤掌鳴り難し」を終生の指針として貫き、自分という一方の掌と、もう一方の掌（家臣、領民）との信頼を大切にした。その拍手こそが団結力だ。

企業と情報システムという双方の掌を導き寄せて、トータルなサービスを提供している業界器量人。コンピュータ（新品・中古）の販売から設置・保守サービスまで、その信頼の拍手に定評のあるところだ。ソリューション事業への展開力、選びぬかれた商品力、さらにプロ集団の社員力がその伸展を支えている。

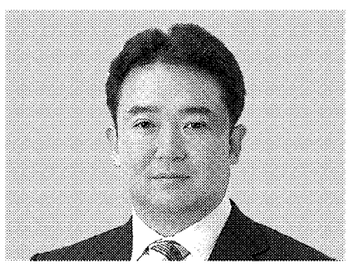


メルクロス㈱

代表取締役社長　**西川　宗行**氏
東京都中央区日本橋3・3・9

茶屋四郎次郎は早くから家康の側近として働き、主として物資輸送を担当した才覚人。本能寺の変のとき、家康は堺から伊賀越えで逃れたが四郎次郎は銀子を土民に配りながら先導役を務めた。のち京都で徳川家の呉服用達の一方、秀吉からは朱印状を受け貿易を営み豪商となった。

そのルーツは安土桃山時代の〝近江商人〟。以来四百年余の歴史を紡いで、「先義後利」の教えを受け継ぎながら今も時代とニーズを共有させている。食品、繊維原料、寝具、インテリア、照明器具、工芸品、包装用品、雑貨、不動産など、事業領域は多岐にわたるがその原点は変わらない。人間関係を基軸とした信頼づくりこそが本質だ。

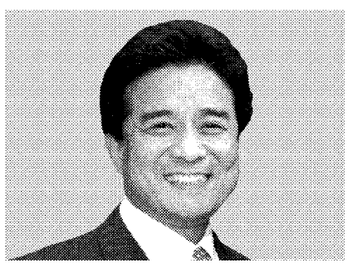


㈱ビットアイル

代表取締役社長　**寺田　航平**氏
東京都港区東新橋1・9・2

徳川秀忠は兄信康、秀康が豪将タイプであったのとは違い穏健篤実な人柄で家臣の信望を集めた家康の三男。家臣や諸大名の意見をよく取り入れながら、最終決断は自らが迅速に下した。戦国時代から徳川時代へと時代が急変する中、征夷大将軍たる威厳と器量を示した名君である。

21世紀型企業の生命線とも言うべき情報システムが、24時間365日確実に安全に運用されることを至上命題としている。そして単なるインターネットデータセンターとしてではなく、様々なITのアウトソーシング業務の拠点として顧客企業の事業を支える存在になるべく努力に余念がない。時代の大器企業だ。

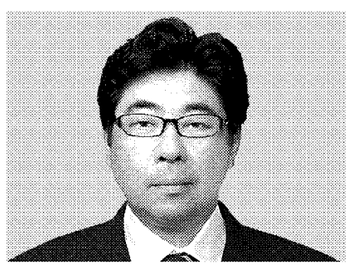


㈱エクミス

代表取締役社長　**山田　悟**氏
東京都台東区東上野1・20・4

徳川家康は「三河の小倅」から「海道一の弓取り」となり、遂には徳川三百年の泰平を形作った希代の創業者。「我いまだ志を得ざるとき忍耐の二字を守れり、我まさに志を得たる後油断大敵の四字を守れり」がその人生訓だった。

昨秋『スノープレシャスダイヤモンド 銀座コア店』をオープン。これまでのジュエリーリフォームの第一人者としての実績とノウハウを活かし、新たな飛躍のステージを実現した。独自の流通スタイルを創りあげた同社ならではの新分野への挑戦であり、まさに志を得んとするとき得たる後の躍動期と言えるだろう。

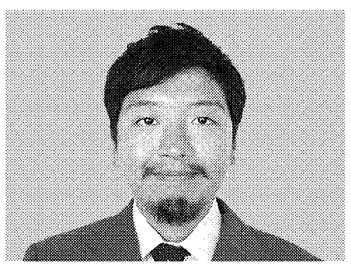


㈱根上産業

代表取締役　**根上　尚登**氏
埼玉県川越市的場1510・1

本多忠勝は信長からも「花も実もある勇士」と讃えられた徳川四天王の筆頭。十三歳のとき、桶狭間の合戦で初陣を飾り、以後五十七度出陣して、掠り傷ひとつ負わなかったという極めつきの剛将だ。「家康に過ぎたるものが二つあり、唐の兜に本多平八」と世人が評したゆえんでもある。

自動車用を中心としたエンジニアリングプラスチック部品製造の剛将。昭和33年の創業以来、特に自動車用電装樹脂成形品など、より高品質・高機能製品が求められる分野において、高い技術力と品質で応えてきている。インサート成形と熱硬化性樹脂成形のリーディングカンパニーだ。更なる成長への意識も高い。

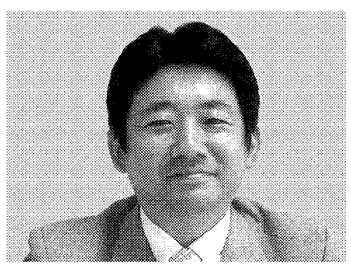


㈱ゲットイット

代表取締役　**廣田　優輝**氏
東京都中央区勝どき4・14・22

池田輝政はその武威と人物を慕って仕官を望む者が多かった名将の器。秀吉の信任が厚い勇将の一人として武名が轟いていた。関ヶ原合戦の重要な前哨戦となった織田秀信の守る岐阜城攻めに参戦。戦後は姫路五十二万石の藩主となり、世人から名君姫路宰相と呼ばれた家康の娘婿。

定価百億円を超える中古のルーター、スイッチ、サーバー、ストレージを保有している日本最大級の中古・再生品の業務用IT機器販売会社。世界の大手メーカーを始めとするインフラを供給及びサービスを提供する全てのIT機器を有している。また家庭用品の輸入や内装・トイデジタルカメラの事業まで名将の器だ。

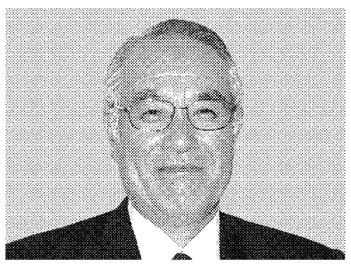


㈱日本システム研究所

代表取締役　**松下　幸夫**氏
神奈川県川崎市中原区新丸子東2・902・1

井伊直政は鎧・兜・槍などの武具の全てを赤一色に染め抜いた「赤備え」を率い、常に徳川軍の先陣を務めた家康自慢の忠義者。関ヶ原では先鋒を定められた福島正則隊を抜け駆けし、家康の四男松平忠吉と直政隊の放った銃声が合戦開始の合図となる。徳川四天王の堂々たる一角。

検査システムの全数検査や肌診断機の研究・開発に取り組む先陣技術者集団。1968年（昭和43年）創業以来の実績は言うに及ばず、積み重ねてきた信頼の密度も濃い。顧客企業の抱える様々な技術的課題に対し、独創的手法の提案→実践→システム開発というステップを通じ、同社ならではの満足を提供している。

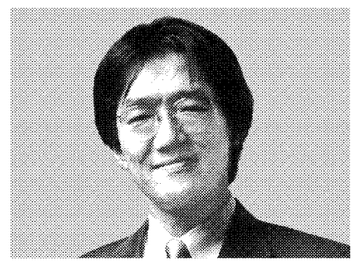


㈱ビジネスパスポート

代表取締役社長　**与謝野　肇**氏
東京都千代田区平河町1・7・17

細川藤孝（幽斎）は多芸に秀で、とりわけ歌道には一流だった文武両道の極めつきの智将。はじめて足利義昭の側近として頭角を現し、信長に見込まれ本能寺の変のときには親戚の光秀を捨てて秀吉につき、秀吉の死後は家康からも重用された。鋭い先見力、人物観が細川家存続の根幹だ。

適性・適職診断の『BPASSサーベイ』を運営し、学生と企業双方から〝頼れる側近〟として重宝がられている。仕事をする上での強みとか弱みといった自分力を知ること（自己分析診断）は、採用時だけのものでなく企業の社内教育にも取り入れられて好評だ。自分がやりたいこと、自分の能力を活かせることが見える究極の術である。

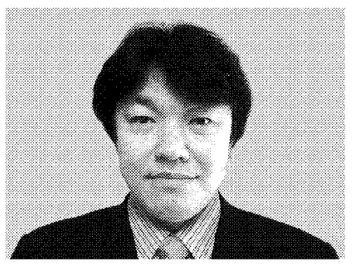


㈱エフビーアイ・コミュニケーションズ

代表取締役　**福田　光洋**氏
東京都渋谷区神宮前2・26・8

雑賀孫一は雑賀鉄砲衆の首領。天下布武を旗印とした信長の前に立ちはだかった難敵には信玄がいて、謙信もいた。がそれよりも更に難敵は大坂の石山本願寺だった。その本願寺勢の中で終始中核を成した精強集団が、装備鉄砲四千挺の雑賀鉄砲衆であり戦国屈指の腕前を誇った。

IR（投資家向けのPR）を得意とする唯一のPR会社で、パンフレットやカタログ、会社案内、Webの企画・制作まで豊富な実績と信用に定評のあるところ。PR、IR、リスクコミュニケーションなどの分野でプロフェッショナルな人材を多数擁しており、社員の半数がバイリンガルのため多言語対応も可能という俊英だ。

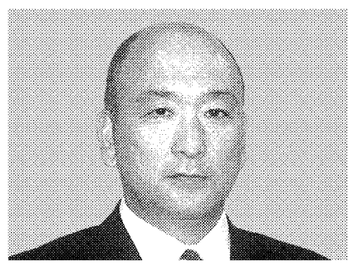


㈱アプリ

代表取締役社長　**伊藤　泰昌**氏
東京都中央区新富1・7・6

佐々成政は信長直属黒母衣衆の筆頭で、世に名高い織田軍団鉄砲隊の隊長でもあった。いち早く信長が採用して組織した鉄砲隊を率いて目覚しい戦果を挙げた最初の武将だ。そのため野戦に弱かった尾張勢は次第に精強軍団として勇名を馳せるようになる。信長の信頼も厚かった。

ゲームセンターで使用される業務用ゲーム機器及びソフトウェアの企画・開発・販売の先陣武将。常に業界の先頭に立って次の一手を考え、自ら実践する選りすぐりの専門家軍団だ。少数精鋭ならではの小回りと専門性を活かした「改造キッド」など新しい発想と抜群の行動力で未来を見据えた業務展開を続けている。

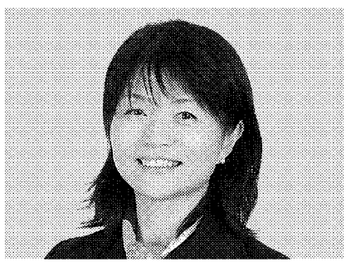


㈱トライサーブ

代表取締役　**庄司　文明**氏
東京都豊島区池袋2・14・4

南光坊天海は明智光秀の後身であったとも言われる伝説の高僧であり、徳川三代の知恵袋。家康の神号を「権現」と決め、秀忠に一片の反論も許さなかった。百歳をゆうに越えながら頭脳明晰、記憶力抜群で、家光はもとより春日局、松平信綱、柳生宗矩らからも一目置かれた重鎮だ。

ソフトウェア開発及び業務アプリケーション作成、開発環境構築技術サービスの専門家集団。WE TRY A SERVEをそのまま社名の意としただけに、「お客様に満足して頂けるサービスの提供」を常に念頭に置き、社員一人ひとりにも確実に浸透している。真のサービスを考える知恵袋SEとして、関係先からの信頼も厚い。

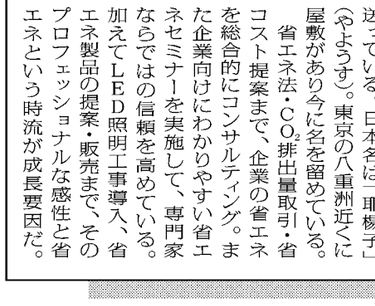


㈱アンゼロ

代表取締役　**土井　明美**氏
東京都千代田区外神田2・17・6

春日局（福）は優秀な乳母に孫の傅育を委ねたいとの家康の意向で採用された。明智光秀に仕えた知勇兼備の名臣斎藤利三の娘である。弟国千代を世継ぎにと望む秀忠夫婦の機先を制し、駿府の大御所家康に直談判。その行動力と教養と人柄で、竹千代の精神的支柱となり大奥に君臨した。

人材紹介サービスと社員研修を主軸とするキャリアサポートプロデューサー。非公開案件を中心とした数多くの求職案件を有して、企業と人材双方からの要望に応えている。人材には乳母となって教育を施し、企業にあっては幕閣の一員となって人材の能力を引き出す。まさにゼロから1を生み出す才色兼備だ。

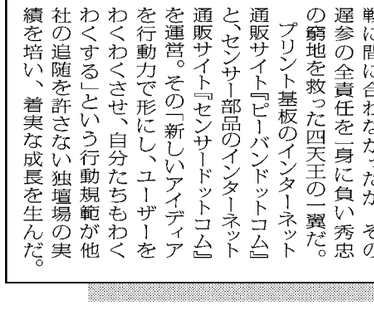


㈱エピカ

代表取締役社長　**マキロイ　褒成**氏
東京都渋谷区南平台町15・1

ヤン・ヨーステンは三浦按針と共に豊後に漂着したオランダ人航海士。家康の外交顧問になり、オランダ・イギリス両国の貿易を斡旋した。自らも朱印状を受けてシャム・カンボジアなどに商船を送っている。日本名は「耶楊子」（やようす）。東京の八重洲近くに屋敷があり今に名を留めている。

省エネ法・CO_2排出量取引・省コスト提案まで、企業の省エネを総合的にコンサルティング。また企業向けにわかりやすい省エネセミナーを実施して、専門家ならではの信頼を高めている。加えてLED照明工事導入、省エネ製品の提案・販売まで、そのプロフェッショナルな感性と省エネという時流が成長要因だ。

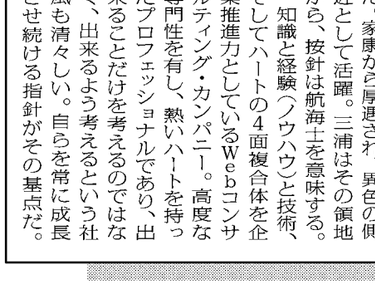


㈱インフロー

代表取締役　**田坂　正樹**氏
東京都千代田区五番町14

榊原康政は少年にして家康に近侍し、そのまま徳川譜代家臣団に名を連ね、一生を家康のためのみに生きた生粋の武人。関ヶ原合戦では秀忠に従い、途中真田昌幸の奇略に翻弄され本戦に間に合わなかったが、その遅参の全責任を一身に負い秀忠の窮地を救った四天王の一翼だ。

プリント基板のインターネット通販サイト『ピーバンドットコム』と、センサー部品のインターネット通販サイト『センサードットコム』を運営。その「新しいアイディアを行動力で形にし、ユーザーをわくわくさせ、自分たちもわくわくする」という行動規範が他社の追随を許さない独壇場の実績を培い、着実な成長を生んだ。

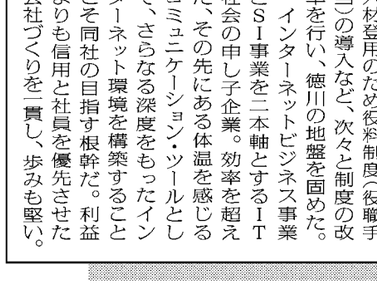


㈱クリエイティブホープ

代表取締役社長　**大前　創希**氏
東京都新宿区西新宿7・22・45

三浦按針（ウィリアム・アダムズ）はイギリス人として初めて日本の土を踏んだ東洋探検船団航海長。家康の外交顧問になり、数学や幾何学を教えたほか、伊豆の伊東でイギリス型帆船を造った。家康から厚遇され、異色の側近として活躍。三浦はその領地から、按針は航海士を意味する。

知識と経験（ノウハウ）と技術、そしてハートの4面複合体を企業推進力としているWebコンサルティング・カンパニー。高度な専門性を有し、熱いハートを持ったプロフェッショナルであり、出来ることだけを考えるのではなく、出来るよう考えるという社風も清々しい。自らを常に成長させ続ける指針がその基点だ。

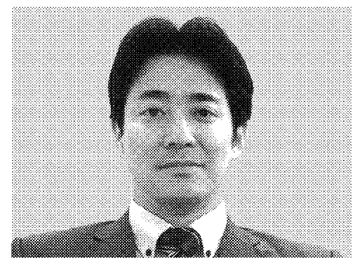


㈱アイグローブ

代表取締役　**宮城　勤**氏
東京都中央区日本橋蛎殻町2・10・10

保科正之は家光の異母弟で会津松平家の始祖。明暦の大火のとき、幕府の米や金を放出して難民救済に乗り出すなど、官より民を優先させ行政手腕を発揮した。大名の証人制度（人質）廃止、人材登用のため役料制度（役職手当）の導入など、次々と制度の改革を行い、徳川の地盤を固めた。

インターネットビジネス事業とSI事業を二本軸とするIT社会の申し子企業。効率を超えた、その先にある体温を感じるコミュニケーション・ツールとして、さらなる深度をもったインターネット環境を構築することこそ同社の目指す根幹だ。利益よりも信用と社員を優先させた会社づくりを一貫し、歩みも堅い。

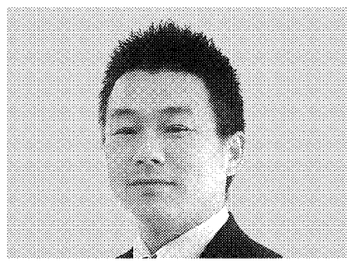


㈱デジタルスフィア

代表取締役社長　**宮野　浩一**氏
東京都千代田区神田猿楽町1・3・1

徳川忠長は幼名国千代で秀忠、江の次男。幼年時から聡明闊達で、兄の竹千代（家光）よりも将軍の器にふさわしいと誰もが思った。竹千代が乳母福に育てられたのに対し、国千代は母江の愛情と期待を一身に受けた。大御所家康の一言で世継の夢を断たれたが名君の器だった。

Web、クライアント／サーバ、データウェアハウス、基盤など、コンピュータシステムの設計、開発、製造、販売の聡明闊達企業。世の中で唯一完全体と言われる球体を意味する「スフィア」を社名とした気鋭だ。ゆえに常にソフトウェアの完全なる構築を目指し、日々研鑽に励んでいる。若い社員の熱意で上昇軌道も高い。

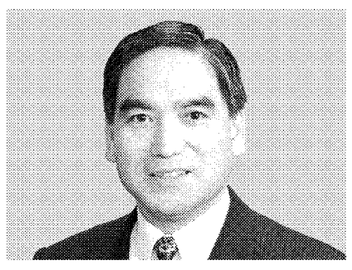


㈱インター・ベル

代表取締役　**田中　克典**氏
東京都新宿区中落合3・29・10

石川数正は家康の人質時代から殆どの戦で一緒に戦い、その苦楽をともにしてきた無二の忠臣。難題を迫る秀吉と主君家康の間で腐心し、遂には秀吉のもとに出奔する。家康、秀吉両陣営の中で一番の情報通であり、その卓越した外交手腕、誠実な人柄が両雄の綱引きとなった。

アパレル業界に特化し、販売のプロフェッショナルを育成、輩出している総合人財サービス企業。アパレルの店頭を活性化することを最大ミッションとして、日本人ならではのキメ細かいサービス姿勢に磨きをかけ、働く人、買う人、店の三位一体の繁栄を推進。それぞれの立場から信頼される販売の功臣だ。

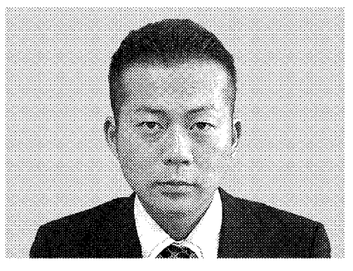


㈱高橋賃金システム研究所

代表取締役　**高橋　邦名**氏
東京都中央区日本橋3・3・3

山内一豊は三成挙兵の報告を受けた『小山の軍議』で、「上方に向かう味方の軍に、途上にあるわが掛川城を兵糧ともども明け渡したい」と発言。この一言で東海道に城を持つ将はいずれも一豊に倣った。家康も「一豊の小山の陣の一言こそ関ヶ原勝利の基なり」と土佐一国を与えた。

企業の人事活性化を図る活人コンサルティングとして定評。労務問題解決から人づくり・組織づくりまで、「人事から経営を支援する」熱い志の専門家集団だ。多摩労務管理事務所時代から半世紀の歴史を育み、地域に特化した実績No.1の社労士事務所としても信頼が厚い。同所の一言こそ企業成長の基なりと言える。



東電池㈱

代表取締役社長　**東　長大**氏
東京都荒川区南千住6・57・12

松平信康は父の家康をも凌ぐほどの大器として徳川譜代重臣団から期待されていた嫡男。信長も「今川の血をひく信康が、義元を討った織田に報復する日が来るやも知れぬ。その時、わが嫡男信忠では互角に戦えまい」と危惧する。自らの運命に逆らわず誠実を貫き通した快男子だ。

1918年（大正7年）に日本電池㈱の代理店として創業した業界屈指の名門。そして今、時代のニーズに的確に応えて、新たな信用と実績の構築に余念がない。電源システム、「エコセラ」を始めとする照明機器、さらにキメ細やかなアフターフォローを基軸とした保守・運用。どの事業もまさに堂々たる〝大器〟の展開だ。